

環境ホルモン・ゴミ問題は意識が薄れ、地球温暖化に関心が集中

【調査概要】

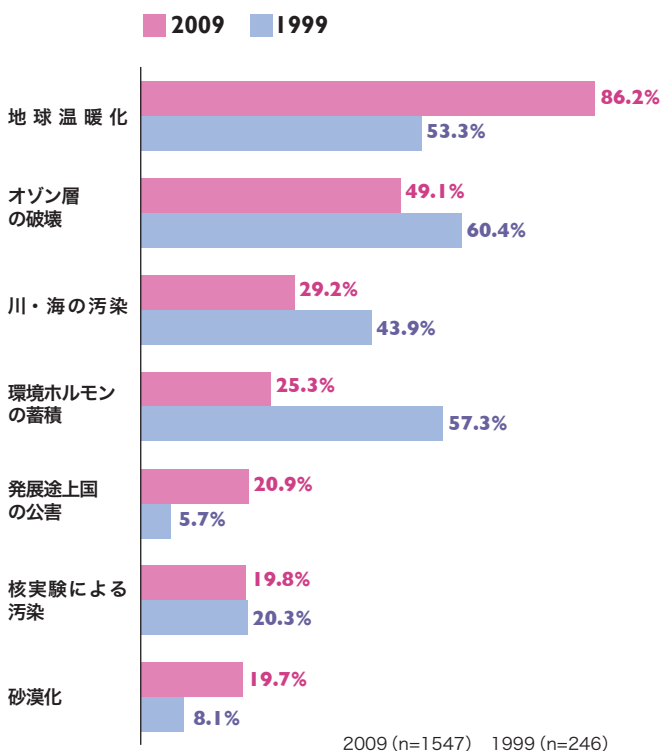
- ① 1999 年 6 月 紙面掲載調査
- ② 2009 年 11 月 ウェブ調査

1999 年の調査で 2 番目に関心が高かった「環境ホルモンの蓄積」。そういえば…と懐かしくなるほど、環境問題意識は時代とともに変動した。行動に関しても「買い物袋持参」以外の「ゴミ問題」を切り口にした環境行動は低調に。

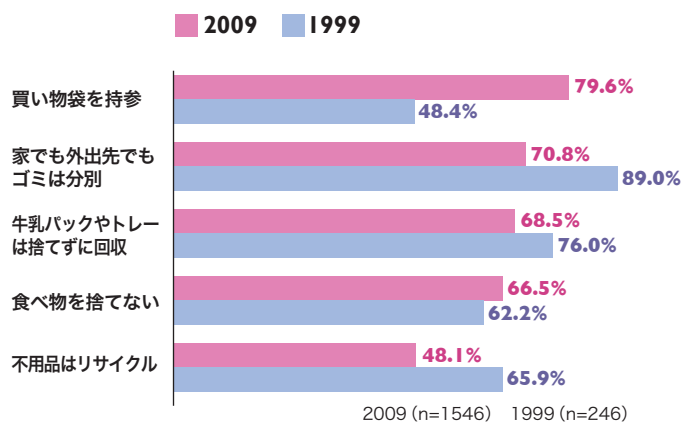
一方、主婦にとって「節約」というメリットも大きい「省エネ型」のエコ行動は、すでに多くの人実践している。しかし、「エコ」＝「温暖化防止」＝「省エネ」＝「節約」という思考回路が出来上がっているからこそ、今後は「イコール節約だけでない環境への取り組み」への啓発が課題になりそうだ。

今、国際的な環境問題で気になることは？

(12 項目から 3 つ選択。2009 年上位 7 項目を表示)



環境を意識して日ごろしていること



環境を意識して日ごろしている省エネ行動 (2009 年)

- ① 水の出っぱなしに注意 83.4%
 - ② 電気を小まめに消す 80.1%
 - ③ エアコンなどの温度設定に注意 71.4%
 - ④ 風呂の残り湯を活用 67.1%
 - ⑤ 主電源、コンセントを抜く 51.6%
 - ⑥ 省エネ型商品を選ぶ 44.1%
- 2009 (n=1546)

FROM LIVING 「参加すること」で環境への意識が高まる活動

500人のボランティアが参加～かながわ水源の森林づくり「リビング新聞の森林」キャンペーン



神奈川県松田町「やどりぎ水源林」にある、「リビング新聞の森林」

リビング新聞横浜本部は、神奈川県が展開する「かながわ水源の森林づくり」活動にパートナーとして参加しています。5 年間の継続寄付を前提に、森林活動を行える「パートナー林」が設定されるというもので、リビング新聞は募金活動やコンサートの収益の一部を寄付し、「リビング新聞の森林」を所有。

さらに環境に関心の高い多くの企業や団体の協賛により、その活動を紙上で紹介し、「リビング新聞の森林」でのボランティア活動を読者に呼びかけ実施。2009 年も 10 月に約 500 人の読者の参加を得て森林活動を行いました。

地元・沖縄の家族と一緒に海を守る「沖縄サンゴキャンペーンモニターツアー」



地元の子供、東京の子供が一緒にサンゴの移植を体験

リビング新聞では、家族で沖縄旅行を楽しみながら、海の環境保護活動に参加する「沖縄サンゴキャンペーンモニターツアー」を企画。99 組の応募者から選ばれた 2 家族が、カヌチャ ベイリゾートに宿泊し、日本海洋少年団沖縄地区連盟による「海っ子美ら海体験教室」に参加。「サンゴ移植体験」を中心とした感動をウェブサイトで報告し、沖縄のすばらしさを伝えています。